

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月28日

【事業年度】 第103期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 三国商事株式会社

【英訳名】 MIKUNI SHOJI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 西尾佳三

【本店の所在の場所】 東京都港区浜松町一丁目10番7号

【電話番号】 03(3438)1021(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 伊藤寿一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区浜松町一丁目10番7号

【電話番号】 03(3438)1021(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 伊藤寿一

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	28,996,736	27,364,324	21,865,896	19,677,628	20,125,696
経常利益又は 経常損失() (千円)	83,894	122,420	123,895	63,911	83,572
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失() (千円)	121,380	90,912	103,708	18,376	27,682
包括利益 (千円)	186,964	197,277	164,611	15,041	157,733
純資産額 (千円)	1,769,106	1,928,728	1,715,169	1,691,143	1,818,949
総資産額 (千円)	9,857,315	9,349,976	8,373,397	7,843,459	8,005,018
1株当たり純資産額 (円)	289.60	316.17	285.58	282.92	304.33
1株当たり当期純利益 又は当期純損失() (円)	20.30	15.21	17.35	3.07	4.63
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	17.6	20.2	20.4	21.6	22.7
自己資本利益率 (%)	7.3	5.0			1.5
株価収益率 (倍)	19.5	5.9			
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	798,606	1,331,422	65,486	210,023	266,562
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	90,671	27,850	19,007	74,268	12,497
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	510,196	381,544	296,502	523,200	437,109
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	863,231	1,790,638	1,395,830	999,799	824,871
従業員数 (名)	145	136	123	119	112

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第101期及び第102期の自己資本利益率及び株価収益率は、親会社株主に帰属する当期純損失のため記載しておりません。

4. 第103期の株価収益率は、非上場株式であり相場や気配が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	17,186,046	16,306,016	15,891,243	17,120,357	18,220,192
経常利益 (千円)	68,355	96,797	70,855	85,262	121,423
当期純利益 (千円)	26,808	37,068	58,293	81,168	23,865
資本金 (千円)	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000
発行済株式総数 (株)	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
純資産額 (千円)	1,575,268	1,637,093	1,636,867	1,724,898	1,823,616
総資産額 (千円)	6,710,972	6,432,450	6,311,594	6,723,059	6,874,007
1株当たり純資産額 (円)	263.47	273.88	273.84	288.57	305.11
1株当たり配当額(内1株当たり中間配当額) (円)	5.00 ()	5.00 ()	5.00 ()	5.00 (-)	5.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	4.48	6.20	9.75	13.58	3.99
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	23.5	25.5	25.9	25.7	26.5
自己資本利益率 (%)	1.7	2.3	3.6	4.7	1.3
株価収益率 (倍)	4.3	14.5	7.5	4.4	
配当性向 (%)	111.6	80.6	51.3	36.8	125.3
従業員数 (名)	81	82	80	82	79

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 3. 第103期の株価収益率は、非上場株式であり相場や気配が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和16年 6月	三国電気株式会社設立(東京市京橋区木挽町)
昭和22年10月	大阪支店を開設
昭和26年12月	三国株式会社と商号変更
昭和30年 4月	三国商事株式会社と商号変更
昭和35年 9月	日立営業所を開設
昭和37年 6月	本社を東京都港区浜松町の現在地に新築・移転 東京証券取引所市場第二部に上場
昭和44年 7月	小山営業所を開設
昭和48年 7月	長野営業所を開設
昭和50年 4月	日立グループ・丸紅株式会社・東洋鋼鈹株式会社の傘下に入りました
昭和50年 8月	日立営業所を日立支店に改称
昭和53年 7月	社団法人日本証券業協会の店頭登録銘柄となりました
昭和57年 4月	名古屋営業所を開設
平成11年10月	社団法人日本証券業協会の気配公表銘柄となりました
平成12年 4月	三国(国際)有限公司(子会社)を設立
平成13年12月	三国(上海)貿易有限公司(子会社)を設立
平成15年 5月	三国(上海)貿易有限公司を三国(上海)電器件有限公司に改称
平成16年 6月	名古屋営業所を名古屋支店に改称
平成18年 5月	長野営業所を長野支店に改称
平成19年11月	三国永業(天津)国際貿易有限公司(子会社)を設立
平成21年 2月	三国貿易(深圳)有限公司(子会社)を設立
平成27年11月	MIKUNI TRADING ASIA(THAILAND)CO.,LTD.(子会社)を設立
平成29年10月	気配公表銘柄としての指定を取り消し、みらい證券株式会社が運営する株主コミュニティに登録いたしました

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社と連結子会社（海外5社）で構成されております。当社グループの主な取り扱い製品は、「電線関連製品（加工付電線、電子機器用電線、巻線他）」、「化成品関連製品（銅張積層板、合成樹脂、半導体・電子部品他）」、「金属関連製品（表面処理鋼板、薄板、電磁鋼板他）」を販売しております。

当社及び当社の関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

東京支店

「電線関連製品」「化成品関連製品」「金属関連製品」を販売しております。

大阪支店

「電線関連製品」「化成品関連製品」「金属関連製品」を販売しております。

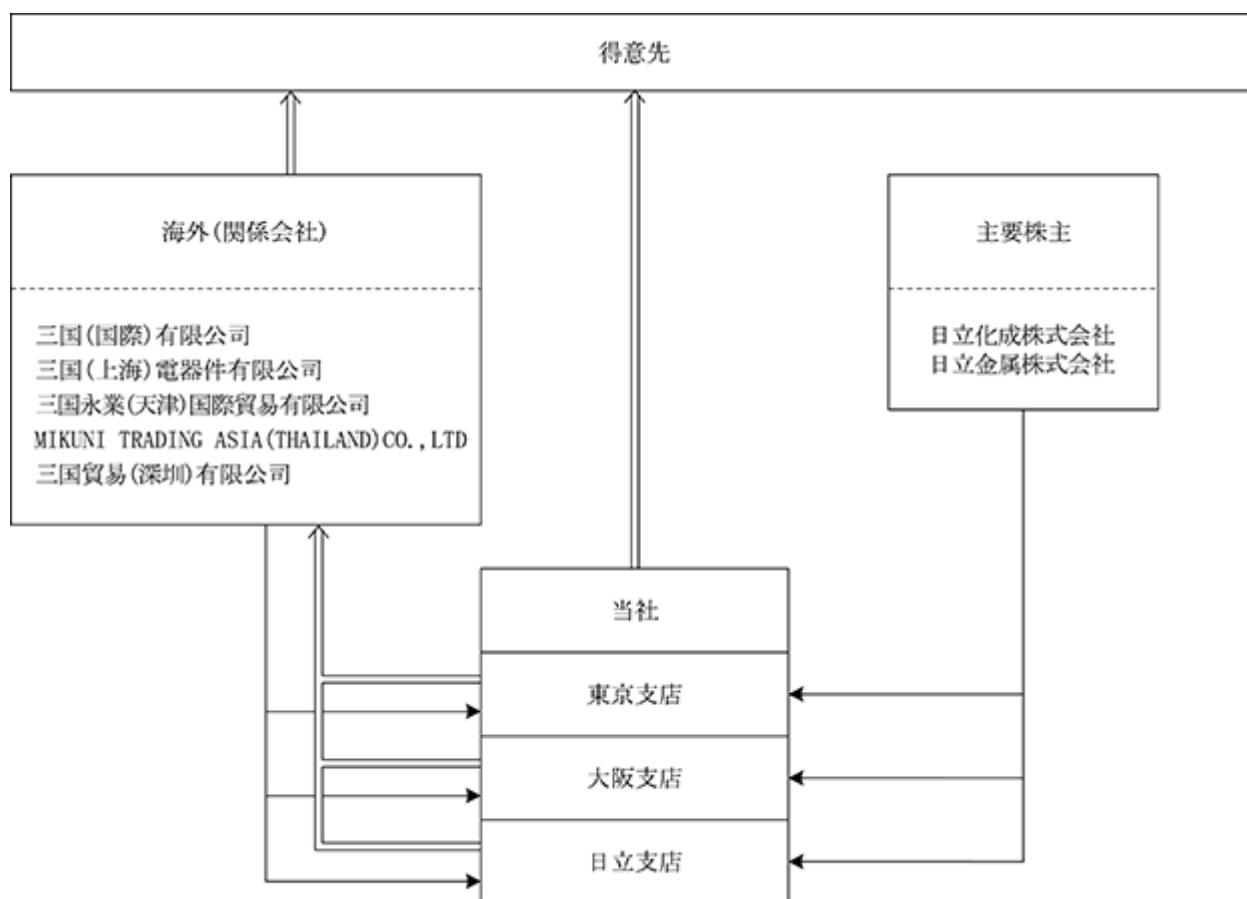
日立支店

「化成品関連製品」「金属関連製品」を販売しております。

海外

「電線関連製品」「化成品関連製品」「金属関連製品」を販売しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



（注）**====>**は商品販売の流れ、**——>**は商品仕入の流れであります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合	関係内容
(連結子会社) 三国(国際)有限公司	中国 香港	1,000千香港ドル	海外	100.0%	当社取扱商品の販売 役員の兼任2名
(連結子会社) 三国(上海)電器件 有限公司 (注)3	中国 上海市	1,200千米ドル	海外	100.0%	当社取扱商品の加工及び販売 役員の兼任3名 借入債務の保証
(連結子会社) 三国永業(天津) 国際貿易有限公司 (注)2	中国 天津市	200千米ドル	海外	100.0% (75.0%)	当社取扱商品の販売 役員の兼任3名
(連結子会社) MIKUNI TRADING ASIA(THAILAND) CO.,LTD.	タイ バンコク市	10,000千 タイバーツ	海外	100.0%	当社取扱商品の販売 借入債務の保証
(連結子会社) 三国貿易(深圳) 有限公司(注)2、4	中国 深圳市	200千米ドル	海外	100.0% (15.0%)	当社取扱商品の販売

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は、間接所有であります。

3. 三国(上海)電器件有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

三国(上海)電器件有限公司

主要な損益情報等	売上高	2,128,842千円
	経常利益	25,086千円
	当期純利益	24,462千円
	純資産額	152,393千円
	総資産額	1,136,090千円

4. 三国貿易(深圳)有限公司は、平成27年7月17日開催の取締役会において、解散(清算)することを決議致しました。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
東京支店	28
大阪支店	19
日立支店	14
海外	33
全社(共通)	18
合計	112

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。
 2. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
79	46.9	17.1	5,584,219

セグメントの名称	従業員数(名)
東京支店	28
大阪支店	19
日立支店	14
全社(共通)	18
合計	79

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

労使関係は常に安定しており、当社グループには労働組合は結成されておられません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

当社グループは、電機・電子機器関連材料等を扱う商社として、“いつでもお役に立てる三国商事”を合言葉に、「顧客第一主義」を基本方針として、収集した情報の有効活用、新商品の紹介等提案型営業に徹すること、流通や各種サービスの充実、海外営業拠点の拡充等を通じて当社業務の付加価値を高め、作り手側と使い手側双方から真に有効であると認められ信頼される商社を目指して、業容の拡大、発展を図ることを目標にしております。

(2) 経営環境及び対処すべき課題等

今後の我国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に引き続き回復基調で推移することが期待されるものの、海外経済の不可実性や地政学リスクの高まりに加え、為替・原材料価格の変動等の影響により、景気の先行きは引き続き不透明な環境が続くものと予想されます。

このような経済環境下にあります。当社グループは、成長分野市場への新規参入や既存顧客のニーズに対応した製品の拡販に取り組むとともに、引き続き徹底した経費の削減と業務の合理化を推進し、業績の向上に総力を結集する所存であります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの業績は、今後起こりうる様々な要因により大きな影響を受ける可能性があります。

以下において、当社グループにおける事業展開上のリスク要因となる可能性がある主な事項を記載しております。

なお、業績に影響を与える要因は、これらに限定されるものではありません。また、これらの事項は、期末日現在において判断したものであります。

(1) 事業環境が変化するリスク

当社グループは、国内のほか、アジア地域で事業活動を展開しているため、日本の一般景気動向のみならず、前記各国での経済状況の影響も受ける可能性があります。

従って、日本を含む当社グループの事業展開上重要な地域における経済情勢や消費者動向の変動等が当社グループの業績及び財政状態に悪影響を与える可能性があります。

(2) 取引先の信用リスク

当社グループは取引先に対し、売掛債権、前渡金、保証その他の形で信用供与を行っており、信用リスクを負っております。これら取引先、契約相手先が、支払不能、契約不履行等に陥る場合、当社グループの事業及び財政状態が悪影響を受ける可能性があります。

当社グループでは、取引先の与信審査の徹底や担保・保証等の取得に係るリスク管理に努めており、また、上記の信用リスクが顕在化した場合に備えるため、貸倒引当金を設定しております。

しかしながら、こうした管理によりリスクを十分に回避できる保証はありません。また、当社グループの見積りや評価が正しいとは限らなかった場合や経済状況の悪化、その他の予期せぬ要因により当社事業が大きな影響を受ける可能性があります。

(3) 為替相場変動のリスク

当社グループは、海外子会社を中心に輸出及び輸入を行っていることから、為替相場の変動は当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、為替相場の変動リスクを軽減するための施策を実行しておりますが、為替相場の変動による経営成績への影響を完全に回避できる可能性はありません。

(4) 大規模災害のリスク

当社グループにおける取扱製品供給者の拠点に、万一、大規模災害が発生した場合、取扱製品の調達等に支障が生じる恐れがあり、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 取扱製品及びそれらの原材料価格の変動について

当社グループの取扱製品やそれらの原材料価格が変動した場合、競合他社との価格競争力の維持が困難になり、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当期における我国経済は、堅調な企業収益を背景にして、設備投資並びに雇用情勢、所得環境の改善が続き、引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で個人消費の伸び悩みや海外経済の不確実性、為替の変動リスク等、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当事業の主要市場も価格競争の激化や顧客の在庫調整等の影響を受けまして、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような経済環境下にありまして、当社グループは、既存顧客の受注拡大を図るとともに、主要仕入先との連携を強化し、積極的に新規需要の取り込みを行いました。加えまして車載・医療等の高収益案件の獲得へ向け、増収施策の遂行に努めました。

当社グループは、成長分野市場への新規参入や既存顧客のニーズに対応した製品の拡販に取り組むとともに、引き続き徹底した経費の削減と業務の合理化を推進し、業績の向上に総力を結集する所存であります。

以上の結果、当期の売上高は20,125百万円と前年同期と比べ448百万円（2.3%）の増加となり、売上総利益は1,497百万円と前年同期と比べ39百万円（2.7%）の増加となりました。また利益面におきましては、経常利益は83百万円（前年同期は63百万円の経常損失）を計上いたしました。親会社株主に帰属する当期純利益は27百万円（前年同期は18百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）の計上にとどまりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

東京支店

ビル・住宅建材向け塗料用樹脂は下期の天候不順で伸び悩み、太陽光発電設備向け電線も案件の小型化で減少いたしました。車載関連の巻線・電線・配線板・電磁鋼板・電気絶縁材料は、国内大手の既存車種とモデルチェンジ向けが年度を通して堅調に推移いたしました。また遊技機メーカー向け配線板材料は、上期に新規製品販売が立ち上がって伸長し、ファクトリーオートメーション業界向け配線板材料も人手不足が追い風となり、年度を通して売上に大きく寄与いたしました。この結果、当支店の売上高は8,900百万円と前年同期と比べ188百万円（2.2%）の増加となり、営業利益は70百万円と前年同期と比べ21百万円（44.3%）の増加となりました。

大阪支店

海外需要の拡大による中国大手液晶メーカーの工場建設ラッシュに伴い、パネル製造関連材料が大きく売上が伸びるとともに、車部品塗料用樹脂も売上が増加いたしました。また、二次電池缶用鋼板は環境規制やエネルギーセキュリティの面から民生用を中心に車載用にも売上が大きく伸ばしたほか、車載LED照明、スマートフォン関連向け配線板材料の売上が伸長いたしました。新規案件としては、医療用分析機器の販売や建材用表面処理鋼板が売上に寄与いたしました。この結果、当支店の売上高は6,021百万円と前年同期と比べ838百万円（16.2%）の増加となり、営業利益は55百万円と前年同期と比べ22百万円（69.8%）の増加となりました。

日立支店

電動工具向け材料は、国内生産の減少分を海外生産分の取り込みで補いきれず微減となりました。また空調設備・白物家電・住宅関連・医療検査装置向け材料が伸び悩むとともに、車載機器向けハーネス・ケーブル加工品も対象機種減少の影響を受けて減少いたしました。しかしながら、電子部品がバッテリーマネジメントシステム向けに新規採用されたことにより前期並みの売上が維持しました。加えまして、インフラ関連向け及び配線板関連向け材料も好調に推移いたしました。この結果、当支店の売上高は2,230百万円と前年同期と比べ29百万円（1.4%）の増加となり、営業利益は10百万円と前年同期と比べ8百万円（340.2%）の増加となりました。

海外

電子部品が日本の仕入先の外資買収による商流変更や価格競争激化の影響を受け売上が減少し、更に電池用部材も一部顧客の工場閉鎖により、売上が大幅に減少いたしました。この結果、売上高は2,973百万円と前年同期と比べ609百万円（17.0%）の減少となり、営業損失は45百万円と前年同期と比べ45百万円（49.9%）の減少となりました。

仕入及び販売の実績は、次のとおりであります。

仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
東京支店	8,329,315	102.3
大阪支店	6,030,851	117.4
日立支店	2,283,565	100.0
海外	2,088,194	100.9
合計	18,731,927	106.3

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
東京支店	8,900,619	102.2
大阪支店	6,021,342	116.2
日立支店	2,230,280	101.4
海外	2,973,454	83.0
合計	20,125,696	102.3

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態

資産

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末から161百万円増加し8,005百万円となりました。主として、現金及び預金が174百万円減少し、電子記録債権が114百万円、商品及び製品が103百万円それぞれ増加したことにより流動資産が23百万円増加し、投資有価証券が152百万円増加したことにより固定資産が138百万円増加したことによるものであります。

負債

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末から33百万円増加し6,186百万円となりました。主として、支払手形及び買掛金が330百万円、短期借入金が111百万円それぞれ減少し、電子記録債務が693百万円、1年以内返済予定の長期借入金が151百万円増加したことにより流動負債が388百万円増加し、長期借入金465百万円減少したことにより固定負債が354百万円減少したことによるものであります。

純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末から127百万円増加し、1,818百万円となりました。主として、その他有価証券評価差額金が104百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は824百万円となり、前連結会計年度末と比較し174百万円の減少となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、266百万円となりました。主な増加要因は、仕入債務の増加であり、前年同期と比べ56百万円（26.9%）の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、12百万円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出によるものであり、前年同期と比べ61百万円（前年同期は74百万円）の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、437百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少による支出及び長期借入金の返済による支出によるものであり、前年同期と比べ86百万円（前年同期は523百万円）の減少となりました。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、商品の仕入のほか、販売費及び一般管理費の営業費用であります。当社グループは、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

運転資金は、自己資金及び金融機関からの借入を基本としております。

4 【経営上の重要な契約等】

契約会社名	契約先	契約年月日	契約内容	備考	契約期間
三国商事株式会社	日立化成株式会社	昭和38年 4月	同社製品の販売に関する 事項	特約店 契約	契約日より継続 契約
三国商事株式会社	日立金属株式会社	昭和31年 10月	同社製品の販売に関する 事項	特約店 契約	契約日より継続 契約
三国商事株式会社	伊藤忠丸紅鉄鋼株 式会社	昭和22年 1月	同社金属材料の販売に 関する事項	特約店 契約	契約日より継続 契約
三国商事株式会社	東洋鋼鋳株式会社	昭和34年 11月	同社製品の販売に関する 事項	特約店 契約	契約日より継続 契約

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、重要な増減はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成30年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
東京支店 (東京都港区)		営業設備	39,791		23,222 (270.74)	1,337	2,180	66,532	42
大阪支店 (大阪市北区)	大阪支店	営業設備	7,725		()		2,875	10,601	15
日立支店 (茨城県那珂市)	日立支店	営業設備	12,983	109	55,713 (2,895.00)		356	69,162	14

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品の合計であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 大阪支店の建物は賃借しており、月額賃借料は657千円であります。

(2) 在外子会社

(平成30年3月31日現在)

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
三国(国際)有限公司 (中国 香港)	海外	営業設備			()		159	159	6
三国(上海)電器件有限公司 (中国 上海市)	海外	営業設備		1,037	()		335	1,372	18

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の新設等はありません。

(2) 重要な設備の除却等

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の除去等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,000,000	6,000,000	非上場・非登録	単元株式数1,000株
計	6,000,000	6,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年6月30日(注)		6,000,000	50,000	350,000		1,333

(注) その他利益剰余金からの振り替えによる増加であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		2		17	1		488	508	
所有株式数(単元)		129		3,051	1		2,779	5,960	40,000
所有株式数の割合(%)		2.16		51.12	0.02		46.68	100.00	

(注) 1. 自己株式23,183株は「個人その他」の欄に23単元、「単元未満株式の状況」の欄に183株をそれぞれ含めて表示しております。

2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式25単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日立化成株式会社	東京都千代田区丸の内1-9-2	792	13.25
日立金属株式会社	東京都港区港南1-2-70	755	12.64
株式会社ケイエムコーポ	愛知県名古屋市北区若葉通1-3-8	423	7.07
山崎商事株式会社	東京都江東区千石1-3-8	402	6.72
山崎 一	千葉県浦安市	332	5.55
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋1-4-1	254	4.24
東洋鋼鈹株式会社	東京都千代田区四番町2-1-2	195	3.26
有限会社千修	千葉県松戸市常盤平3-1-2	116	1.94
廣谷 真紀子	千葉県松戸市	97	1.62
池 毅彦	福岡県福岡市	81	1.35
計		3,448	57.64

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,937,000	5,937	
単元未満株式	普通株式 40,000		
発行済株式総数	6,000,000		
総株主の議決権		5,937	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式25,000株(議決権25個)が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式183株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三国商事株式会社	東京都港区浜松町 一丁目10番7号	23,000		23,000	0.38
計		23,000		23,000	0.38

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	667	40
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	23,183		23,183	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は創業以来利益確保に努め、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。配当については、各決算期の経営成績並びに今後の事業展開を考慮し、安定した配当を維持・継続しつつ、株主の皆様へ還元していくことを基本方針としております。

この基本方針に基づき当期は、平成30年6月28日開催の第103期定時株主総会において、配当として、1株につき5円の配当を実施することにいたしました。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本としており、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

内部留保金については、企業体質の強化及び事業拡大の原資として活用し、これがひいては将来、安定的配当に寄与していくものと考えております。

(注) 当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年6月28日 定時株主総会決議	29,884	5.00

4 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

(注) グリーンシート制度は、平成30年3月31日をもって廃止となりました。

当社は平成29年10月1日より日本証券業協会が運営会員として指定した、「みらい証券株式会社」が運営する株主コミュニティに移行しております。

なお、株主コミュニティ銘柄には、取引の参考となる相場や気配はありません。

5 【役員の状況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	取締役社長	西尾佳三	昭和32年8月21日生	昭和57年4月 当社入社 平成22年4月 当社理事電線部長 平成23年6月 当社取締役電線部長 平成24年4月 当社取締役大阪支店長 平成25年10月 当社取締役東京支店長 平成26年6月 当社代表取締役社長(現)	(注)3	15
取締役	営業本部長 兼 化成品関連 製品管掌	前島昌則	昭和32年9月7日生	昭和58年4月 当社入社 平成22年4月 当社理事化成品部長 平成24年4月 当社理事日立支店副支店長 平成24年6月 当社理事日立支店長 平成26年6月 当社取締役日立支店長 平成27年5月 当社取締役営業本部副本部長 平成28年6月 当社取締役営業本部長兼 化成品関連製品管掌(現)	(注)3	5
取締役	海外統括 部長 兼 三国(上海)電 器件有限公司 董事長	岡伸一	昭和31年8月22日生	昭和54年4月 株式会社日立製作所入社 平成15年4月 同社デバイス開発センタ資材部長 平成23年10月 日立ピアメカニクス株式会社 (現ピアメカニクス株式会社) 企画室長 平成24年4月 同社監査室長兼企画室主管 平成25年10月 当社理事営業本部副本部長 平成26年3月 当社理事営業本部副本部長兼 三国(上海)電器件有限公司 董事長 平成26年6月 当社取締役海外統括部長兼 三国(上海)電器件有限公司 董事長(現)	(注)3	
取締役	営業本部 副本部長 兼 金属関連 製品管掌	一柳安男	昭和32年7月26日生	昭和55年4月 丸紅株式会社入社 平成19年4月 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 鋼材第二本部 鋼材貿易部部長代行 平成20年4月 伊藤忠丸紅鉄鋼欧州会社 副社長 平成24年4月 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 中国総代表付副総代表兼 伊藤忠丸紅鉄鋼貿易(上海) 有限公司董事兼總經理 平成27年6月 当社取締役営業本部副本部長 平成28年6月 当社取締役営業本部副本部長兼 金属関連製品管掌(現)	(注)3	
取締役	東京支店長 兼 第一営業部長 兼 電線関連 製品管掌	佐藤孝二	昭和34年12月29日生	昭和57年4月 日立電線株式会社入社 平成19年4月 同社情報システム事業本部 ワイヤレスシステム営業統括部 ワイヤレスシステム営業部長 平成23年7月 同社営業統括本部中国支店長 平成25年2月 株式会社ジェイ・パワーシステム ズ中国支店長 平成26年6月 当社取締役東京支店長 平成28年6月 当社取締役東京支店長兼 電線関連製品管掌 平成30年4月 当社取締役東京支店長兼 第一営業部長兼電線関連製品 管掌(現)	(注)3	30

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	大阪支店長	灰 藤 健 一	昭和32年4月9日生	昭和56年4月 平成17年5月 平成23年12月 平成24年4月 平成26年4月 平成27年3月 平成28年6月	日立化成工業株式会社(現日立化成株式会社)入社 同社関西支社化成成品営業部長 同社機能性樹脂営業部長 同社社会インフラ関連材料営業部長 同社営業本部新規パートナー開拓グループ担当部長 当社理事大阪支店長 当社取締役大阪支店長(現)	(注)3	10
取締役	管理本部長	伊 藤 寿 一	昭和32年5月28日生	昭和56年4月 平成15年7月 平成16年7月 平成17年7月 平成20年6月 平成22年2月 平成26年7月 平成26年10月 平成27年6月	日立電線株式会社入社 同社ビジネスサポート本部 経理部経理グループマネージャー 株式会社ジェイ・パワーシステムズ経理部経理課長 同社経理部長 当社理事総務部長 住電日立ケーブル株式会社 理事総務部長 同社理事管理本部副本部長 当社理事管理本部長 当社取締役管理本部長(現)	(注)3	10
取締役		古 澤 宏 和	昭和43年7月29日生	平成30年4月 平成30年6月	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 薄板部長代行兼薄板課長(現) 当社取締役(現)	(注)3	
監査役		満 澤 宏	昭和35年10月21日生	平成30年4月 平成30年6月	日立化成株式会社 営業本部日本統括兼営業企画部長(現) 当社監査役(現)	(注)4	
監査役		吉 和 崇 之	昭和38年7月3日生	平成30年4月 平成30年6月	日立金属株式会社 営業本部東日本支社長兼 営業企画部長(現) 当社監査役(現)	(注)4	
計							70

- (注) 1. 取締役古澤宏和は、社外取締役であります。
 2. 監査役満澤宏及び吉和崇之は、社外監査役であります。
 3. 平成30年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
 4. 平成30年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社はコーポレート・ガバナンスに関し、経営上の最も重要な課題の一つと位置づけ、より透明性の高い経営を実現するため経営管理組織・体制を整備し、経営効率の向上、経営監視機能の強化、法令遵守の徹底に取り組んでおります。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

・会社の機関の内容

当社は監査役制度を採用し、提出日現在、取締役8名(うち社外取締役1名)、監査役2名(社外監査役2名)の体制となっております。取締役の人数を適正規模とすることで総合的な観点から意思決定を行っております。

・内部統制システム整備の状況

当社では、適正かつ効率的な経営により事業の持続的発展を実現することができるよう内部統制システムの整備に努めております。

コンプライアンス体制については、遵法活動及び企業倫理の観点から平成22年3月に「三国商事株式会社行動規範」を制定するとともに、規程及び組織を整備するなど、コンプライアンスの徹底を図っております。また、コンプライアンス活動を推進する専任部門であるCSR推進部を中心に取締役及び従業員に対する教育啓蒙活動を行うほか、各部門との情報連絡を通してコンプライアンス状況の把握に努めております。

・内部監査及び監査役監査の状況

監査役は、2名の社外監査役で構成されております。各監査役は、取締役会等の重要な会議に出席するとともに、取締役からの聴取、重要な決裁書類の閲覧等を通じ、取締役の意思決定の過程及び業務執行状況について監査を行っております。また、監査室(1名)を設置しており、結果は経営トップに報告されるとともに、監査室と監査役は必要の都度、相互に情報交換を行い監査の実効性の向上を目指しております。

・会計監査の状況

当社と新日本有限責任監査法人との間では、監査契約を締結しており、金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、次のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員	千頭 力	新日本有限責任監査法人	(注)

(注) 継続監査年数が7年以内のため記載を省略しております。

なお、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、その他8名であります。

・社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係の概要

社外取締役の古澤宏和は、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の社員であります。同社は、当社株式の4.24%(出資比率)を保有する株主であり、当社の継続的な商品仕入先であります。

社外監査役の満澤宏及び吉和崇之はそれぞれ、日立化成株式会社及び日立金属株式会社の社員であります。日立化成株式会社及び日立金属株式会社は、当社株式をそれぞれ13.25%(出資比率)及び12.64%(出資比率)を保有する株主であり、当社の継続的な商品仕入先であります。

取締役の定数

当社の取締役は、12名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、並びに累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

. 会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策の実行を可能とするためであります。

. 会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への安定的な利益還元を行うためであります。

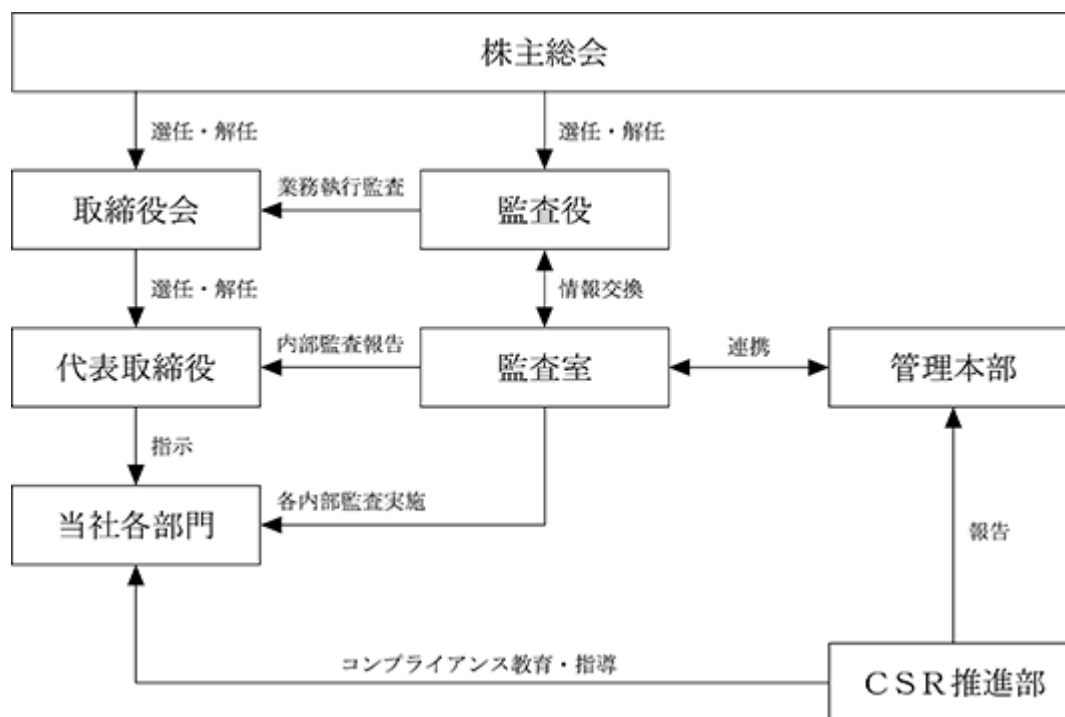
株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

コーポレート・ガバナンス管理体制の整備の状況

管理本部の下にCSR推進部を設置しております。CSR推進部は、法令、災害、環境、品質、化学物質、契約、公正取引及び輸出管理等に係るコンプライアンスについて社内規程の制定及びマニュアルの作成、研修等を行い、企業を取り巻くリスクに対して適切な対応を図っております。

以上の会社の機関及び内部統制システムの関係を図示すると以下のとおりであります。



役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する報酬は以下のとおりであります。

取締役 8名 36,030千円（うち社外1名 600千円）

社外監査役 2名 1,200千円

- (注)1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 上記支給額には、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金12,920千円及び役員賞与支給予定額4,500千円を含んでおります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	13,600		13,600	
連結子会社				
計	13,600		13,600	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、原則として、契約当事者の協議により決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	999,799	824,871
受取手形及び売掛金	² 4,441,293	^{2, 3} 4,402,488
電子記録債権	602,805	³ 717,478
商品及び製品	754,365	858,230
前渡金	8,752	3,569
繰延税金資産	26,952	39,268
未収入金	203,496	222,188
未収還付法人税等	-	8,538
その他	7,755	6,887
貸倒引当金	12,702	27,787
流動資産合計	7,032,519	7,055,733
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	450,956	451,756
減価償却累計額	330,474	336,814
建物及び構築物（純額）	¹ 120,481	¹ 114,941
機械装置及び運搬具	22,561	22,823
減価償却累計額	20,330	21,677
機械装置及び運搬具（純額）	2,231	1,146
土地	¹ 175,609	¹ 175,609
リース資産	14,781	11,793
減価償却累計額	10,587	10,455
リース資産（純額）	4,193	1,337
その他	37,503	37,770
減価償却累計額	28,866	31,184
その他（純額）	8,636	6,585
有形固定資産合計	311,152	299,618
無形固定資産	59,160	48,259
投資その他の資産		
投資有価証券	302,903	455,501
従業員に対する長期貸付金	9,077	8,374
繰延税金資産	8,815	2,644
退職給付に係る資産	70,430	89,916
その他	127,795	93,768
貸倒引当金	78,393	48,800
投資その他の資産合計	440,628	601,406
固定資産合計	810,940	949,284
資産合計	7,843,459	8,005,018

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 2,840,461	1, 3 2,509,704
電子記録債務	-	3 693,570
短期借入金	1,712,107	1,601,001
1年内返済予定の長期借入金	300,000	451,905
リース債務	2,907	907
未払法人税等	27,226	5,069
役員賞与引当金	4,000	4,500
その他	133,375	141,837
流動負債合計	5,020,077	5,408,496
固定負債		
長期借入金	965,056	500,000
リース債務	1,366	458
繰延税金負債	5,935	100,625
役員退職慰労引当金	34,010	43,510
退職給付に係る負債	125,871	132,977
固定負債合計	1,132,238	777,571
負債合計	6,152,316	6,186,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	350,000	350,000
資本剰余金	2,967	2,967
利益剰余金	1,204,960	1,202,755
自己株式	3,298	3,338
株主資本合計	1,554,629	1,552,384
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	100,991	205,771
為替換算調整勘定	22,061	30,423
退職給付に係る調整累計額	13,460	30,370
その他の包括利益累計額合計	136,513	266,565
純資産合計	1,691,143	1,818,949
負債純資産合計	7,843,459	8,005,018

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	
売上高		19,677,628		20,125,696
売上原価		1 18,219,283		1 18,628,062
売上総利益		1,458,345		1,497,633
販売費及び一般管理費				
荷造運搬費		191,870		167,637
従業員給料及び手当		606,430		583,256
賞与		111,946		124,040
退職給付費用		23,469		23,936
役員退職慰労引当金繰入額		12,540		12,920
役員賞与引当金繰入額		4,000		4,750
その他		518,549		507,119
販売費及び一般管理費合計		1,468,806		1,423,658
営業利益又は営業損失()		10,461		73,975
営業外収益				
受取利息		34,596		34,485
受取配当金		4,612		5,312
受取賃貸料		3,110		2,891
受取補償金		10,526		-
貸倒引当金戻入額		1,558		-
為替差益		-		32,260
デリバティブ評価益		2,179		-
業務受託料		11,205		825
雑収入		5,844		6,259
営業外収益合計		73,634		82,034
営業外費用				
支払利息		50,501		50,775
手形売却損		6,653		7,288
為替差損		62,993		-
雑損失		6,935		14,373
営業外費用合計		127,084		72,437
経常利益又は経常損失()		63,911		83,572
特別利益				
移転補償金		10,862		-
固定資産売却益		2 4,064		-
特別利益合計		14,926		-
特別損失				
固定資産除却損		3 1,220		-
製品不良補償金		7,460		-
投資有価証券評価損		-		6,810
貸倒引当金繰入額		2,800		-
ゴルフ会員権評価損		4,424		-
関係会社清算損		-		7,510
特別損失合計		15,904		14,321
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()		64,889		69,251

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
法人税、住民税及び事業税	21,064	7,394
法人税等調整額	67,577	34,174
法人税等合計	46,512	41,569
当期純利益又は当期純損失()	18,376	27,682
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失()	18,376	27,682

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益又は当期純損失()	18,376	27,682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36,749	104,779
為替換算調整勘定	13,670	8,362
退職給付に係る調整額	10,338	16,910
その他の包括利益合計	1 33,417	1 130,051
包括利益	15,041	157,733
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	15,041	157,733

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	350,000	4,044	1,253,224	3,298	1,603,970
当期変動額					
剰余金の配当			29,887		29,887
親会社株主に帰属する当期純損失()			18,376		18,376
自己株式の取得					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		1,077			1,077
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	1,077	48,263	-	49,340
当期末残高	350,000	2,967	1,204,960	3,298	1,554,629

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	64,241	35,732	3,121	103,095	8,102	1,715,169
当期変動額						
剰余金の配当						29,887
親会社株主に帰属する当期純損失()						18,376
自己株式の取得						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						1,077
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	36,749	13,670	10,338	33,417	8,102	25,314
当期変動額合計	36,749	13,670	10,338	33,417	8,102	24,025
当期末残高	100,991	22,061	13,460	136,513	-	1,691,143

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	350,000	2,967	1,204,960	3,298	1,554,629
当期変動額					
剰余金の配当			29,887		29,887
親会社株主に帰属する当期純利益			27,682		27,682
自己株式の取得				40	40
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	2,205	40	2,245
当期末残高	350,000	2,967	1,202,755	3,338	1,552,384

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	100,991	22,061	13,460	136,513	1,691,143
当期変動額					
剰余金の配当					29,887
親会社株主に帰属する当期純利益					27,682
自己株式の取得					40
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	104,779	8,362	16,910	130,051	130,051
当期変動額合計	104,779	8,362	16,910	130,051	127,806
当期末残高	205,771	30,423	30,370	266,565	1,818,949

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)		(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	64,889		69,251	
減価償却費	30,145		28,177	
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,241		14,964	
受取利息及び受取配当金	39,208		39,798	
支払利息	50,501		50,775	
為替差損益(は益)	43,827		39,693	
売上債権の増減額(は増加)	456,818		57,669	
たな卸資産の増減額(は増加)	511,400		94,375	
仕入債務の増減額(は減少)	163,311		349,087	
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12,540		9,500	
役員賞与引当金の増減額(は減少)	-		500	
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	1,912		1,894	
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,610		13,879	
投資有価証券評価損益(は益)	-		6,810	
固定資産売却損益(は益)	4,064		-	
固定資産除却損	1,220		-	
ゴルフ会員権評価損	4,424		-	
関係会社清算損益(は益)	-		7,510	
その他	39,907		1,929	
小計	215,422		315,098	
利息及び配当金の受取額	39,143		39,794	
利息の支払額	50,468		50,103	
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	5,926		38,226	
営業活動によるキャッシュ・フロー	210,023		266,562	
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出	24,113		993	
有形固定資産の売却による収入	4,738		-	
無形固定資産の取得による支出	48,513		4,698	
投資有価証券の取得による支出	8,399		9,102	
その他	2,019		2,295	
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,268		12,497	
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入金の純増減額(は減少)	369,040		104,985	
長期借入金の返済による支出	108,650		300,000	
配当金の支払額	33,202		29,175	
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	9,180		-	
その他	3,125		2,947	
財務活動によるキャッシュ・フロー	523,200		437,109	
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,586		8,116	
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	396,031		174,927	
現金及び現金同等物の期首残高	1,395,830		999,799	
現金及び現金同等物の期末残高	1 999,799		1 824,871	

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

三国(国際)有限公司

三国(上海)電器件有限公司

三国永業(天津)国際貿易有限公司

MIKUNI TRADING ASIA(THAILAND)CO.,LTD.

三国貿易(深圳)有限公司

三国貿易(深圳)有限公司は、平成27年7月17日開催の取締役会において、解散(清算)することを決議致しました。

連結子会社であったMIKUNI SHOJI(THAILAND)CO.,LTD.は、清算したため当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

なお、非連結子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法の適用会社はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

三国(国際)有限公司、三国(上海)電器件有限公司、三国永業(天津)国際貿易有限公司、MIKUNI TRADING ASIA(THAILAND)CO.,LTD.、三国貿易(深圳)有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法を採用しております。ただし、金利スワップについて、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

商品及び製品

主として総平均法に基づく原価法

(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。ただし、当社は平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

具体的な耐用年数

建物及び構築物 5～65年

機械装置及び運搬具 4～15年

工具、器具及び備品 2～20年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社は、役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

当社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たしている金利スワップについて、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段...金利スワップ取引

ヘッジ対象...借入金の利息

ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する社内規程に基づき、ヘッジ対象に係る金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の適用要件を満たしているため、有効性の評価は省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日又は償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物	41,400千円	39,791千円
土地	23,222千円	23,222千円
計	64,622千円	63,014千円
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
仕入債務	1,062,905千円	1,534,380千円
計	1,062,905千円	1,534,380千円

2 受取手形裏書譲渡高及び手形債権譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	7,083千円	9,236千円
手形債権譲渡高	957,452千円	1,126,749千円

3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形		3,285千円
電子記録債権		92,653千円
手形債権譲渡高		207,817千円
支払手形		41,563千円
電子記録債務		241,664千円

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価	4,049千円	16,196千円

2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	4,064千円	-

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	801千円	
その他(工具、器具及び備品)	418千円	
計	1,220千円	

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	50,298千円	150,307千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	50,298千円	150,307千円
税効果額	13,548千円	45,527千円
その他有価証券評価差額金	36,749千円	104,779千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	11,334千円	2,201千円
組替調整額	-	7,510千円
税効果調整前	11,334千円	9,712千円
税効果額	2,336千円	1,350千円
為替換算調整勘定	13,670千円	8,362千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	11,450千円	21,284千円
組替調整額	3,445千円	3,081千円
税効果調整前	14,895千円	24,366千円
税効果額	4,557千円	7,456千円
退職給付に係る調整額	10,338千円	16,910千円
その他の包括利益合計	33,417千円	130,051千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,000,000	-	-	6,000,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,516	-	-	22,516

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	29,887	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	29,887	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,000,000	-	-	6,000,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,516	667	-	23,183

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 667株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	29,887	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	29,884	5.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	999,799千円	824,871千円
現金及び現金同等物	999,799千円	824,871千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産 主として、本社におけるホストコンピューター(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年以内	13,541千円	8,737千円
1年超	8,848千円	84千円
合計	22,390千円	8,821千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に各種絶縁材料・電子部品・鉄鋼及び電線等の販売事業を行うための、必要な運転資金（主に銀行借入）を調達しております。デリバティブは、基本的に外貨建金銭債権債務の予想される決済高の範囲内で為替予約取引を利用することとしており、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建営業債権については、将来の為替相場の変動リスクに晒されております。貸付金は、取引先及び従業員に対するものであり、貸出先の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、取引先企業との業務等に関するものであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、1年以内の支払期日である。また、外貨建営業債務については、将来の為替相場の変動リスクに晒されております。借入金は、運転資金の調達を目的としたものであり、3年以内の返済期日であります。

デリバティブ取引は、通常の取引の範囲内で、外貨建営業債権債務に係る為替予約取引を行っており、為替相場の変動リスクに晒されております。

(3) 金融取引に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権及び貸付金については、経理部及び営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び債権残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用に当たっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、信用度の高い国内の銀行を契約先としているため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

為替予約取引の実行及び管理は社内管理規程に従い経理部が行っており、取引に当たっては経理担当役員の決裁により行っております。また、取引の状況については、定期的に取締役会に報告しております。

投資有価証券については、投資先（取引企業）の信用状況を定期的に調査し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直ししております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、経理部が資金の調達、返済及び運用等を、資金繰計画に基づいて最も効率的な方法で行い管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)に記載しております)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
現金及び預金	999,799	999,799	
受取手形及び売掛金(純額) (1)	4,428,591	4,428,591	
電子記録債権(1)	602,805	602,805	
投資有価証券			
その他有価証券	289,329	289,329	
資産計	6,320,525	6,320,525	
支払手形及び買掛金	2,840,461	2,840,461	
短期借入金	1,712,107	1,712,107	
長期借入金(2)	1,265,056	1,270,130	5,073
負債計	5,817,624	5,822,698	5,073
デリバティブ取引(3)	2,179	2,179	

(1) 受取手形及び売掛金、電子記録債権に対応する、貸倒引当金を控除しております。

(2) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(3) デリバティブ取引によって、生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、で表示しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
現金及び預金	824,871	824,871	
受取手形及び売掛金(純額) (1)	4,374,728	4,374,728	
電子記録債権(1)	717,470	717,470	
投資有価証券			
その他有価証券	448,738	448,738	
資産計	6,365,808	6,365,808	
支払手形及び買掛金	2,509,704	2,509,704	
電子記録債務	693,570	693,570	
短期借入金	1,601,001	1,601,001	
長期借入金(2)	951,905	952,230	324
負債計	5,756,181	5,756,506	324

(1) 受取手形及び売掛金、電子記録債権に対応する、貸倒引当金を控除しております。

(2) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 資産

現金及び預金、 受取手形及び売掛金、 電子記録債権

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

株式は、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、(有価証券関係)注記に記載しております。

(2) 負債

支払手形及び買掛金、 電子記録債務、 短期借入金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

長期借入金は、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。金利スワップの特例処理の対象とされている長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理しております。

(3) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関する注記事項については、(デリバティブ取引関係)注記に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	平成29年 3月31日	平成30年 3月31日
非上場株式	13,574千円	6,763千円

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年 3月31日)

	1年以内(千円)	1年超 5年以内(千円)	5年超 10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	992,076			
受取手形及び売掛金	4,441,293			
電子記録債権	602,805			
合計	6,036,176			

当連結会計年度(平成30年 3月31日)

	1年以内(千円)	1年超 5年以内(千円)	5年超 10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	824,173			
受取手形及び売掛金	4,402,488			
電子記録債権	717,478			
合計	5,944,140			

(注4) 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,712,107					
長期借入金	300,000	465,056	500,000			
合計	2,012,107	465,056	500,000			

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,601,001					
長期借入金	451,905	500,000				
合計	2,052,906	500,000				

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	268,742	123,633	145,109
小計	268,742	123,633	145,109
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	20,586	28,287	7,700
小計	20,586	28,287	7,700
合計	289,329	151,920	137,408

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	424,211	132,737	291,474
小計	424,211	132,737	291,474
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	24,526	28,285	3,759
小計	24,526	28,285	3,759
合計	448,738	161,022	287,715

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、該当事項はありません。

当連結会計年度において、その他有価証券(非上場株式)について6,810千円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、時価を把握することが極めて困難と認められる株式の減損処理にあたっては、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、個別に回復可能性等を判断し、減損処理の要否を決定しております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	契約額等(千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価(千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	113,455		2,832	2,832
	買建				
	米ドル	20,754		652	652
	合計	134,209		2,179	2,179

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	465,056	465,056	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	451,905		(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります)では、勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	400,984千円	397,344千円
勤務費用	19,750千円	20,633千円
利息費用	1,603千円	1,589千円
数理計算上の差異の発生額	2,790千円	983千円
退職給付の支払額	27,784千円	1,140千円
退職給付債務の期末残高	397,344千円	417,443千円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
年金資産の期首残高	332,346千円	341,903千円
期待運用収益	1,329千円	1,367千円
数理計算上の差異の発生額	14,241千円	20,301千円
事業主からの拠出額	11,722千円	11,950千円
退職給付の支払額	17,735千円	1,140千円
年金資産の期末残高	341,903千円	374,382千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
積立型制度の退職給付債務	271,473千円	284,466千円
年金資産	341,903千円	374,382千円
	70,430千円	89,916千円
非積立型制度の退職給付債務	125,871千円	132,977千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	55,440千円	43,060千円
退職給付に係る負債	125,871千円	132,977千円
退職給付に係る資産	70,430千円	89,916千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	55,440千円	43,060千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
勤務費用	19,750千円	20,633千円
利息費用	1,603千円	1,589千円
期待運用収益	1,329千円	1,367千円
数理計算上の差異の費用処理額	2,415千円	2,051千円
過去勤務費用の費用処理額	1,029千円	1,029千円
確定給付制度に係る退職給付費用	23,469千円	23,936千円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	1,029千円	1,029千円
数理計算上の差異	13,866千円	23,336千円
合計	14,895千円	24,366千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	1,810千円	772千円
未認識数理計算上の差異	21,206千円	44,533千円
合計	19,395千円	43,761千円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	24%	26%
株式	41%	42%
一般勘定	31%	30%
その他	4%	2%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.4%	0.4%
長期期待運用収益率	0.4%	0.4%
予想昇給率	1.0% ~ 6.1%	1.0% ~ 6.1%

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付に係る負債	35,556千円	39,804千円
貸倒引当金	17,856千円	22,484千円
未払賞与	17,613千円	18,972千円
役員退職慰労引当金	10,407千円	13,314千円
子会社への投資に係る一時差異	56,608千円	4,879千円
その他	68,200千円	80,891千円
繰延税金資産小計	206,242千円	180,346千円
評価性引当額	80,414千円	89,993千円
繰延税金資産合計	125,827千円	90,353千円
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	37,338千円	36,808千円
その他有価証券評価差額金	36,416千円	81,943千円
退職給付に係る調整累計額	5,935千円	13,391千円
退職給付に係る資産	12,656千円	13,236千円
その他	3,648千円	3,686千円
繰延税金負債合計	95,995千円	149,066千円
繰延税金資産(負債)純額	29,832千円	58,713千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率		30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		7.2%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.5%
住民税均等割等		2.8%
海外子会社税率差異		10.2%
役員賞与損金不算入額		1.9%
評価性引当額		2.7%
その他		4.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		60.0%

(注) 前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

報告セグメントの決定方法、各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

当社の報告セグメントは当社の構成単位のうち分離されて財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は主に「電線関連製品」「化成関連製品」「金属関連製品」の販売を行っており、国内においては各支店が、海外においては現地関係会社为主体となって海外での製品販売の活動を行っております。当社及び当社の関連会社はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは販売拠点を基礎としたセグメントから構成されており、「東京支店」「大阪支店」「日立支店」「海外」の4つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	日本			海外	計		
	東京支店	大阪支店	日立支店				
売上高							
外部顧客への売上高	8,712,033	5,182,349	2,200,418	3,582,827	19,677,628	-	19,677,628
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,859	571,443	431,252	470,255	1,495,811	1,495,811	-
計	8,734,892	5,753,793	2,631,671	4,053,083	21,173,440	1,495,811	19,677,628
セグメント利益又は セグメント損失()	48,784	32,906	2,374	90,486	6,420	4,040	10,461
セグメント資産	2,840,608	1,514,757	702,286	1,571,041	6,628,692	1,214,767	7,843,459
その他の項目							
減価償却費	220	840	1,155	4,244	6,460	23,684	30,145
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	-	11,100	550	1,061	12,711	16,368	29,079

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 4,040千円には、セグメント間振替高3,978千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 8,019千円が含まれております。

また、セグメント資産の調整額1,214,767千円には、セグメント間振替高 479,708千円、各報告セグメントに配分していない全社資産1,694,475千円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失()は、連結損益計算書の営業利益又は営業損失()と調整を行っております。

3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社管理部門で使用する固定資産であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	日本			海外	計		
	東京支店	大阪支店	日立支店				
売上高							
外部顧客への売上高	8,900,619	6,021,342	2,230,280	2,973,454	20,125,696	-	20,125,696
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,974	620,252	428,722	394,380	1,462,330	1,462,330	-
計	8,919,593	6,641,595	2,659,002	3,367,834	21,588,026	1,462,330	20,125,696
セグメント利益又は セグメント損失()	70,401	55,860	10,451	45,297	91,415	17,440	73,975
セグメント資産	2,937,484	1,538,979	647,100	1,472,208	6,595,772	1,409,245	8,005,018
その他の項目							
減価償却費	209	1,523	1,211	1,706	4,651	23,525	28,177
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	-	-	-	201	201	5,498	5,699

- (注) 1. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 17,440千円には、セグメント間振替高 5,615千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 11,825千円が含まれております。
 また、セグメント資産の調整額1,409,245千円には、セグメント間振替高 387,858千円、各報告セグメントに配分していない全社資産1,797,103千円が含まれております。
2. セグメント利益又はセグメント損失()は、連結損益計算書の営業利益又は営業損失()と調整を行っております。
3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社管理部門で使用する固定資産であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントについては、当社グループは販売拠点別を基礎としたセグメントから構成されており、製品及びサービスごとの情報の把握が困難のため記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

日本	中国	その他	合計
16,091,655千円	3,210,855千円	375,117千円	19,677,628千円

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントについては、当社グループは販売拠点別を基礎としたセグメントから構成されており、製品及びサービスごとの情報の把握が困難のため記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

日本	中国	その他	合計
17,146,985千円	2,613,981千円	364,729千円	20,125,696千円

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る）等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	日立化成(株)	東京都 千代田区	15,454,363	製造業	所有 直接 0 被所有 直接13	商品の仕入	電子電気材料 等の仕入	5,582,348	買掛金	224,992
							利息の 受取り	19,304		
主要株主	日立金属(株)	東京都 港区	26,283,559	製造業	所有 直接 0 被所有 直接12	商品の仕入	電線・ケーブ ル等の仕入	3,349,722	買掛金	355,089
							利息の 受取り	8,242		

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
 (1) 電子電気材料等及び電線・ケーブル等の仕入については、市場価格を勘案して、価格交渉の上、決定して
 しております。
 (2) 金利については、市場金利を勘案して、利率を合理的に決定しております。
 3. 日立化成(株)及び日立金属(株)の買掛金については、建物・土地を担保として抵当に供してあります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	日立化成(株)	東京都 千代田区	15,454,363	製造業	所有 直接 0 被所有 直接13	商品の仕入	電子電気材料 等の仕入	5,969,387	買掛金	113,360
							利息の 受取り	22,114		
主要株主	日立金属(株)	東京都 港区	26,283,559	製造業	所有 直接 0 被所有 直接12	商品の仕入	電線・ケーブ ル等の仕入	3,802,115	買掛金	1,058,091
							利息の 受取り	7,726		

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
 (1) 電子電気材料等及び電線・ケーブル等の仕入については、市場価格を勘案して、価格交渉の上、決定し
 ております。
 (2) 金利については、市場金利を勘案して、利率を合理的に決定しております。
 3. 日立化成(株)及び日立金属(株)の買掛金については、建物・土地を担保として抵当に供してあります。

2. 連結財務諸表提出会社の同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
 前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
 該当事項ありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (法人) が議決権 の過半数 を所有し ている会 社(当該 会社の子 会社を含 む)	日立金属商事 (株)	東京都 港区	350,000	卸売業			電線・ケー ブル等の仕 入	1,128,318	買掛金	133,344
									電子記録債 務	245,919

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
 電線・ケーブル等の仕入については、市場価格を勘案して、価格交渉の上、決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	282.92円	304.33円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失()	3.07円	4.63円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失()(千円)	18,376	27,682
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失()(千円)	18,376	27,682
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,977	5,977

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,712,107	1,601,001	1.19	
1年以内に返済予定の長期借入金	300,000	451,905	3.13	
1年以内に返済予定のリース債務	2,907	907	1.21	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	965,056	500,000	1.52	平成31年9月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,366	458	1.21	平成31年4月～ 平成31年12月
その他有利子負債				
合計	2,981,437	2,554,272		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	500,000			
リース債務	458			

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	604,806	528,671
受取手形	4 391,553	4, 5 480,506
電子記録債権	602,805	5 717,478
売掛金	2, 4 3,447,049	2, 4 3,309,551
商品及び製品	534,979	552,611
前払費用	2,204	1,921
繰延税金資産	23,413	35,585
未収入金	219,913	209,190
未収還付法人税等	-	8,538
その他	5,084	2,068
貸倒引当金	37,062	24,674
流動資産合計	5,794,748	5,821,448
固定資産		
有形固定資産		
建物	439,775	440,575
減価償却累計額	319,342	325,679
建物（純額）	1 120,432	1 114,895
構築物	11,180	11,180
減価償却累計額	11,131	11,135
構築物（純額）	48	45
機械及び装置	14,279	14,279
減価償却累計額	14,115	14,170
機械及び装置（純額）	164	109
工具、器具及び備品	28,858	28,858
減価償却累計額	21,701	23,345
工具、器具及び備品（純額）	7,156	5,512
土地	1 175,609	1 175,609
リース資産	14,781	11,793
減価償却累計額	10,587	10,455
リース資産（純額）	4,193	1,337
有形固定資産合計	307,604	297,509
無形固定資産		
ソフトウェア	55,667	44,790
電話加入権	3,358	3,358
無形固定資産合計	59,026	48,149
投資その他の資産		
投資有価証券	302,903	455,501
関係会社株式	179,469	176,780
従業員に対する長期貸付金	9,077	8,374
関係会社長期貸付金	123,000	-
ゴルフ会員権	60,150	60,150
前払年金費用	41,362	43,256
繰延税金資産	5,878	-
その他	11,637	11,637

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
貸倒引当金	171,800	48,800
投資その他の資産合計	561,678	706,899
固定資産合計	928,310	1,052,558
資産合計	6,723,059	6,874,007
負債の部		
流動負債		
支払手形	1 511,535	1, 5 426,825
電子記録債務	-	5 693,570
買掛金	1, 2 2,123,048	1, 2 1,847,372
短期借入金	1,200,000	1,100,000
1年内返済予定の長期借入金	300,000	-
リース債務	2,907	907
未払金	11,257	11,306
未払費用	82,233	88,255
未払法人税等	25,254	1,237
前受金	264	3,838
預り金	71,898	48,118
役員賞与引当金	4,000	4,500
その他	652	-
流動負債合計	4,333,052	4,225,931
固定負債		
長期借入金	500,000	500,000
退職給付引当金	116,198	130,078
役員退職慰労引当金	34,010	43,510
関係会社支援損失引当金	13,533	63,177
繰延税金負債	-	87,234
リース債務	1,366	458
固定負債合計	665,108	824,459
負債合計	4,998,160	5,050,391
純資産の部		
株主資本		
資本金	350,000	350,000
資本剰余金		
資本準備金	1,333	1,333
資本剰余金合計	1,333	1,333
利益剰余金		
利益準備金	87,500	87,500
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	84,665	83,480
別途積立金	950,000	950,000
繰越利益剰余金	153,706	148,869
利益剰余金合計	1,275,871	1,269,849
自己株式	3,298	3,338
株主資本合計	1,623,906	1,617,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	100,991	205,771
評価・換算差額等合計	100,991	205,771
純資産合計	1,724,898	1,823,616
負債純資産合計	6,723,059	6,874,007

【損益計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高		
売上高	17,120,357	18,220,192
売上原価		
商品期首たな卸高	480,291	534,979
当期商品仕入高	16,029,896	17,038,112
合計	16,510,188	17,573,092
商品期末たな卸高	534,979	552,611
売上原価合計	15,975,209	17,020,480
売上総利益	1,145,148	1,199,711
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	106,090	99,636
役員報酬	19,020	19,560
従業員給料及び手当	446,337	442,181
賞与	111,946	124,040
退職給付費用	23,469	23,936
役員退職慰労引当金繰入額	12,540	12,920
役員賞与引当金繰入額	4,000	4,750
福利厚生費	89,617	91,338
旅費	42,268	40,246
水道光熱費	4,466	4,529
通信費	18,606	16,240
消耗品費	4,501	4,031
賃借料	39,727	34,256
租税公課	16,337	13,359
貸倒引当金繰入額	-	14,901
減価償却費	25,900	26,470
交際費	20,074	18,717
修繕費	917	800
保険料	11,312	11,268
その他	71,968	71,638
販売費及び一般管理費合計	1,069,101	1,074,823
営業利益	76,046	124,888

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業外収益		
受取利息	30,017	31,941
受取配当金	4,612	5,312
受取賃貸料	3,110	2,891
受取保証料	76	-
デリバティブ評価益	2,179	-
貸倒引当金戻入額	1,212	-
業務受託料	11,205	825
雑収入	1,990	2,508
営業外収益合計	54,404	43,479
営業外費用		
支払利息	23,347	22,967
手形売却損	6,653	7,288
売上債権売却損	2,215	3,883
為替差損	9,366	10,790
雑損失	3,605	2,014
営業外費用合計	45,188	46,943
経常利益	85,262	121,423
特別利益		
移転補償金	10,862	-
特別利益合計	10,862	-
特別損失		
製品不良補償金	7,460	-
投資有価証券評価損	-	6,810
関係会社株式評価損	11,180	2,689
ゴルフ会員権評価損	4,424	-
貸倒引当金繰入額	¹ 20,465	-
関係会社支援損失引当金繰入額	3,907	49,643
特別損失合計	47,437	59,143
税引前当期純利益	48,686	62,279
法人税、住民税及び事業税	21,064	3,000
法人税等調整額	53,546	35,413
法人税等合計	32,482	38,414
当期純利益	81,168	23,865

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	350,000	1,333	1,333	87,500	86,114	950,000	100,975	1,224,589
当期変動額								
剰余金の配当							29,887	29,887
固定資産圧縮積立金の取崩					1,449		1,449	-
当期純利益							81,168	81,168
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	1,449	-	52,731	51,281
当期末残高	350,000	1,333	1,333	87,500	84,665	950,000	153,706	1,275,871

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	3,298	1,572,625	64,241	64,241	1,636,867
当期変動額					
剰余金の配当		29,887			29,887
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
当期純利益		81,168			81,168
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			36,749	36,749	36,749
当期変動額合計	-	51,281	36,749	36,749	88,031
当期末残高	3,298	1,623,906	100,991	100,991	1,724,898

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	350,000	1,333	1,333	87,500	84,665	950,000	153,706	1,275,871
当期変動額								
剰余金の配当							29,887	29,887
固定資産圧縮積立金の取崩					1,184		1,184	-
当期純利益							23,865	23,865
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	1,184	-	4,837	6,021
当期末残高	350,000	1,333	1,333	87,500	83,480	950,000	148,869	1,269,849

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	3,298	1,623,906	100,991	100,991	1,724,898
当期変動額					
剰余金の配当		29,887			29,887
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
当期純利益		23,865			23,865
自己株式の取得	40	40			40
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			104,779	104,779	104,779
当期変動額合計	40	6,061	104,779	104,779	98,718
当期末残高	3,338	1,617,845	205,771	205,771	1,823,616

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(2) 子会社株式

移動平均法に基づく原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法に基づく原価法

(収益性の低下による簿価切下げの方法)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

具体的な耐用年数

建物 5～65年

構築物 10～30年

機械及び装置 8～15年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 関係会社支援損失引当金

債務超過関係会社の支援に対する損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して、損失見込額を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	41,400千円	39,791千円
土地	23,222千円	23,222千円
計	64,622千円	63,014千円
	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
仕入債務	1,062,905千円	1,534,380千円
計	1,062,905千円	1,534,380千円

2 関係会社に対する資産・負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
売掛金	234,294千円	154,761千円
買掛金	55,331千円	42,072千円

3 保証債務

金融機関からの借入債務等

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
三国(上海)電器件有限公司(関係会社)	615,376千円	582,739千円
MIKUNI TRADING ASIA(THAILAND)CO.,LTD (関係会社)	56,095千円	57,800千円
計	671,471千円	640,539千円

4 受取手形裏書譲渡高、手形債権譲渡高、売掛債権譲渡高、貸付債権譲渡高

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	7,083千円	9,236千円
手形債権譲渡高	957,452千円	1,126,749千円
売掛債権譲渡高	164,429千円	168,326千円
貸付債権譲渡高	112,190千円	106,240千円

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形		3,285千円
電子記録債権		92,653千円
手形債権譲渡高		207,817千円
支払手形		41,563千円
電子記録債務		241,664千円

(損益計算書関係)

1 関係会社に係る特別損失は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸倒引当金繰入額	17,665千円	-

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	179,469千円	176,780千円
計	179,469千円	176,780千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	35,556千円	39,804千円
貸倒引当金	64,570千円	22,695千円
未払賞与	17,613千円	18,972千円
役員退職慰労引当金	10,407千円	13,314千円
繰越欠損金		5,465千円
その他	46,887千円	60,404千円
繰延税金資産小計	175,035千円	160,655千円
評価性引当額	59,331千円	80,315千円
繰延税金資産合計	115,703千円	80,339千円
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	37,338千円	36,808千円
その他有価証券評価差額金	36,416千円	81,943千円
前払年金費用	12,656千円	13,236千円
繰延税金負債合計	86,411千円	131,988千円
繰延税金資産(負債)純額	29,292千円	51,649千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	11.0%	8.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6%	0.5%
住民税均等割	4.0%	3.1%
評価性引当額	117.6%	16.0%
役員賞与損金不算入額	2.5%	2.1%
その他	3.1%	2.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	66.7%	61.7%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】
 【有価証券明細表】
 【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
(株)島津製作所	61,050	182,664
(株)タムラ製作所	194,065	157,969
(株)日立製作所	56,037	43,193
協栄産業(株)	12,552	24,526
(株)京写	53,000	24,380
日立金属(株)	5,397	6,789
(株)イースタン	50,000	5,689
(株)みずほフィナンシャルグループ	22,440	4,295
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	3,580	2,495
日立化成(株)	1,000	2,425
その他(3銘柄)	15,981	1,074
計	477,103	455,501

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	439,775	800		440,575	325,679	6,336	114,895
構築物	11,180			11,180	11,135	3	45
機械及び装置	14,279			14,279	14,170	54	109
工具、器具及び備品	28,858			28,858	23,345	1,643	5,512
土地	175,609			175,609			175,609
リース資産	14,781		2,988	11,793	10,455	2,856	1,337
有形固定資産計	684,483	800	2,988	682,295	384,786	10,895	297,509
無形固定資産							
ソフトウェア				79,442	34,651	15,575	44,790
電話加入権				3,358			3,358
無形固定資産計				82,800	34,651	15,575	48,149

(注) 1. 無形固定資産の金額が資産総額1%以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物 本社 電気設備 800千円

3. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

リース資産 本社 ホストコンピューター 2,988千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	208,862	24,674	150,288	9,773	73,474
役員賞与引当金	4,000	4,750	4,250		4,500
役員退職慰労引当金	34,010	12,920	3,420		43,510
関係会社支援損失 引当金	13,533	49,643			63,177

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券、10株券、50株券、100株券、500株券、1,000株券、外に100株未満端数表示の株券
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社
取次所	三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料、但し、不所持株券の再交付の場合は、株券1枚につき50円
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社
取次所	三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当社のホームページ上に掲載しております。 (ホームページアドレス http://www.mikunishoji.co.jp/)
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1. 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

2. 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第102期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)平成29年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書

事業年度 第103期中(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)平成29年12月27日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

三国商事株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 頭 力

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三国商事株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三国商事株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

三国商事株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 頭 力

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三国商事株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第103期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三国商事株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。